

(13)

娯楽

(第三種郵便物認可)

河

被ばくからわが子を守るために…

奮闘する母の姿描く

わが子を被ばくから守るために何ができるのか。

不安を抱えながらも希望を持って生きる母親の姿を追ったドキュメンタリー映画「小さき声のカノン」選択する人々(鎌仲ひとみ監督)が2日から仙台市青葉区のフォーラム仙台で上映される。22日まで。

あすから仙台で上映

二本松市にある真行寺住職の妻佐々木るりさん。福島第一原発事故後に母子避難をしたが、家族一緒に福島で暮らすと決意し自宅に戻った。幼稚園を運営する夫は、園児の父親と協力し食品の放射性物質測定や園児の生活圏の除染を続け

映画「小さき声のカノン」 「保養」の大切さ訴え



「保養が当たり前の社会になってほしい」と語る鎌仲監督

る。幼稚園には「少しでも安全な食べ物」と、全国から野菜が届く。食品を分け合うことを通じ母親同士の連携が始まる。行政が動かない中、通学路の除染にも汗を流す。自ら考え行動する母親たちのつながりは強まっていく。佐々木さんは、福島を離れ一定期間過ごす「保養」にも取り組む。安全な食品を取ることで内部被ばくの線量がある程度低下するとされているからだ。先行上映に合わせ仙台市を訪れた鎌仲監督は「保養への参加は周囲の理解が必要。情報を集め行動することを恐れないで」と母親たちにメッセージを送る。